

## 「活動の概要と研究成果」

NO.J2424

活動題目: オーストラリア先住民トレス海峡諸島民の非白人祖先の系譜をめぐる人類学的研究

所属: 大阪経済法科大学

氏名: 木村 彩音

本年度の調査活動としてオーストラリア、和歌山市内で現地調査を実施した。2024年5月のオーストラリアでの現地調査は、クイーンズランド州北東部のケアンズ、トレス海峡諸島の木曜島、金曜島で実施した。調査の主たる目的は、2023年5月に発足した木曜島和歌山県人会 (Thursday Island Wakayama Kenjinkai) の一周年記念セレモニーの調査である。具体的には県人会設立一周年記念式典の参与観察、参加者への聞き取り調査、木曜島墓地の慰霊塔や墓の墓碑の記録などを実施した。

この現地調査を通じて示唆されたのは、木曜島の和歌山県人子孫と和歌山県側の親族関係者の間でインフォーマルに行われてきた、互いの親族の探索、交流、祖先の墓や関連する物品 (写真など) の保存継承活動に対する政治的なアクターの関わりとその影響である。県人会一周年記念セレモニーには、県人会関係者だけでなく、トレス海峡諸島地方議会、和歌山県庁、県議会、日本領事館などの関係者も多数参加していた。一連のセレモニーや行事のなかでは、トレス海峡諸島地方議会や和歌山県長、県議会との友好関係の推進や、木曜島の日本人墓の修復計画など、県人会の枠組みを超えた今後の方針や関係性などが折に触れて言及された。今後、これらの政治的なアクターとの関わりや、言及された計画の実施などによって、県人会や和歌山県側の親族関係者のインフォーマルな活動は、今後何らかの影響を受けることが予想される。

実際、8月の和歌山市内での調査で実施したインフォーマルインタビューで、木曜島和歌山県人会会長は、県人会の活動が各行政関係者の支援を受けて活発になっていくことに期待を寄せる一方で、それがあまりにも規模が大きく、フォーマルなものになりすぎることへの不安を滲ませていた。

また一連のセレモニーではその性質上「和歌山県出身の日本人祖先」が終始強調されることになった。そのため、木曜島の他県出身者の子孫は「日本人の式典」として部分的にセレモニーに参加しながらも、「和歌山県出身の人々の式典」として微妙に距離をとる場面も見られた。和歌山県人会の発足と活動の活発化、さらに政治的なアクターとの関わりによって、これまでにあまり意識されてこなかった「日本人子孫」としてのまとまりが浮かび上がる一方で、逆説的にその内部の微妙な差異も表出した可能性がある。そこには、単純な出身地の違いだけでなく、祖先の渡豪時期の違いや真珠貝産業への関わりの違いなども関わっていると推測される。

これらは現在も進行中の事象であり、これからの展開によってはこれまでの推測が覆される可能性もある。日本とオーストラリア両方の現場での注視が今後必要である。